愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班　提出日：令和　４年 ３月８日　報告者：佐藤　文明

行事種別	研究会		行事番号	210015313
開催日	令和　４年 ２月 ５日　(土)　～　令和　４年 ２月 18 日　(金)			
時　間	開　始	―	終　了	―
場　所	Web 配信（オンデマンド配信）			
テーマ	令和３年度愛臨技精度管理報告			
生涯教育履修点数	基礎教科　20　点			
司　会	―			
講　師	講演 1.「臨床化学部門　精度管理報告」 刈谷豊田総合病院　神谷　美聡 藤田医科大学岡崎医療センター　西垣　亮 講演 2.「免疫血清部門　精度管理報告」 豊橋市民病院　森下　拓磨 講演 3.「免疫検査のピットホールと精度管理」 ｼｰﾒﾝｽﾍﾙｽｹｱ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾉｽﾃｨｸｽ株式会社　ｱｯｾｲﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ　ｸﾞﾙｰﾌﾟﾏﾈｰｼﾞｬｰ 荻原　貴裕			
内 容	今年度実施の愛臨技精度管理報告として、講演 1 の臨床化学検査部門では 126 施設が参加され、昨年度と比べ 4 施設増えた。アルブミンに関しては、依然 BCG 法、BCP 法が採用の施設もあるが、約 90%が BCP 改良法で統一されている。ALP、LD に関しては、今回のアンケート結果より、IFCC 法へ変更済み、または変更予定である施設の割合は 98%と、概ね移行が完了されていることが確認できた。また報告値に関しては、JSCC 法（換算値含む）を一定期間併記報告する施設と、IFCC 法のみで報告する施設がおよそ半々の結果となった。今後も継続して情報提供に努めていきたい。また、JCCLS 共用基準範囲を採用する施設も昨年度平均 39%から平均 57%へと増加傾向にあることが確認できた。講演２の免疫血清部門では TSH のハーモナイゼーションの動向を確認し、半数を超える施設で IFCC 標準化法への移行完了が確認できた。また、移行予定の施設を合わせると 85%と順調に移行されていることが確認できた。講演 3 では、シーメンス社より免疫検査のピットホールと精度管理について講演いただき、多岐に渡る視点からの知見が得られた。今後も最新の知見を発信すべく、努めていきたい。			
参加者	総数：94 名（愛臨技会員 72 名、県外会員 20 名、賛助会員他 2 名）			
共催、後援など	なし			

2019.12.7